

水土里ネットの和

発行：水土里ネット和歌山（和歌山県土連） 和歌山市雑賀屋町 1 番地

会長：二階俊博 TEL：073-432-2567 FAX：073-433-1490



第 28 回全国棚田(千枚田)サミット in 那智勝浦町の様子

主な内容 (CONTENTS)

○新年のご挨拶	2
二階俊博水土里ネット和歌山会長		
進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問		
宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問		
○土地改良区職員研修会	5
○土地改良区役職員研修会	5
○全国土地改良大会（福井大会）	6
○全国農業農村整備の集い(11月)	7
○令和6年度農業農村整備予算の確保に向けた提案	7
○第2回和歌山県土地改良事業団体連合会 監事会、理事会の開催	8
○水土里ネット和歌山からのお知らせ	8

新年に当たって



全国土地改良事業団体連合会
和歌山県土地改良事業団体連合会
会長 二階 俊博

令和六年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

本年元日に石川県能登地方を震源とする「令和6年能登半島地震」が発生し、北陸地域を中心に甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方のご冥福を表心よりお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

当会も被災地域の一日も早い復旧・復興に向けて全力で取り組んでまいりますので、関係各位におかれましてはご支援をお願いします。

昨年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤金日子参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。

男女ともに一致団結して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、全国の皆様が日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます、私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

全国水土里ネット会長会議顧問
財務大臣政務官 参議院議員 進藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。本年は元旦から能登半島地震が発生いたしました。お亡くなりになられた方のご冥福を心からお祈りいたしますとともにご遺族の皆様にお悔やみを申し上げます。また、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。被災地域の復旧、復興に向け、私も全力を尽くしてまいります。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

和歌山県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には、旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。本年も現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願い致します。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、国民の生活も平穏を取り戻しつつあります。一方、ロシアのウクライナへの侵略は昨年も収束せず、10月にはイスラエルとパレスチナの紛争も勃発しました。こうした状況下において、エネルギー価格、小麦・とうもろこし等の穀物価格、飼料価格や肥料価格、資材価格等も概して高止まりの傾向にあり、物価上昇が国民生活を圧迫しています。土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円（TPP等対策：760億円、食料安全保障対策：460億円（うち重複300億円）、国土強靱化5か年加速化対策：857億円）が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。この予算額で各地域において必要な事業を計画どおりに実施可能かどうか、現場の実情をしっかりと精査していく必要があると考えています。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参画して少数のメンバーで議論を重ねました。昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行うとともに、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成されており、生産基盤の維持につながる農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進、人材の育成と確保等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。私は、従来から我が国の食料供給力（食料自給力）の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水の持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要となります。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保に努め、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて更に邁進してまいります。皆様からのご指導とご鞭撻をお願い申し上げ、また、貴連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



全国水土里ネット会長会議顧問
参議院議員 宮崎雅夫

元日の夕刻に発生した「令和6年能登半島地震」により、尊い命を失われた方々に哀悼の誠を捧げさせていただきます。さらに、被害に遭われ、不自由な避難生活を余儀なくされている皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、速やかな生活基盤の回復と、今後進められる農地・農業用施設を含む被害状況の把握や早期復旧に向け、私も関係機関等と連携しながらしっかりと対応してまいります。

また、本件地震のほかにも、昨今の激甚化、頻発化する自然災害は、昨年も全国各地で風水害や土砂災害等を発生させ、さらに、夏場の高温や渇水など農業用水の安定供給にも影響を及ぼしています。被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、早期復興に皆様とともに力を合わせて対応してまいります。

さて、辰年を迎え、和歌山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各機関、関係の皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農山村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進や施設の適切な管理にご尽力いただいておりますことに心から敬意を表しますとともに、私、宮崎雅夫の国政活動に多大なるご支援とご指導を賜り衷心より感謝申し上げます。

私も皆様方から多くのご支援をいただきつつ、現場でお聞きした皆様のお声やご要望等に対し、それぞれの地域事情に即した解決に向け、国政の場から全力で対応してまいりました。昨年11月に成立した令和5年度補正予算では、土地改良関係として、昨年度の補正予算から100億円増の1,777億円（食料安全保障強化対策160億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災・国土強靱化対策857億円）を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる電力料高騰分の7割を支援する制度を4月まで延長する対策も含まれています。加えて、12月に閣議決定した令和6年度当初予算案では、前年を上回る4,463億円が計上され、補正予算と合わせた総額は6,240億円となっております。これから行われる通常国会において、参院予算委の理事として、早期成立に向け努力してまいります。

さらに、来る通常国会では、「農政の憲法」とも言われる「食料・農業・農村基本法」の四半世紀ぶりの改正が予定されていることから、我が国の食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の強化等についてしっかり議論を深め、基本法に位置付けていく必要があります。加えて、土地改良が担う重要な役割としての農地や水利施設等の整備、保全管理、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組、農業農村関係人口の拡大など、土地改良区の運営基盤の強化を図っていくことが重要です。

私も、引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を基本理念に、現場や地域の課題をしっかりと伺いし、皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保や制度の充実に向け、鋭意努力してまいります。決意ですので、引き続きのご指導とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、和歌山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係の皆様の方々の益々のご発展とご健勝を心より祈念申しあげ新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。

和歌山県土地改良区連絡協議会 職員研修会



令和5年9月26日～27日の二日間、滋賀県内3箇所、県内14土地改良区、和歌山県、県土連の職員29名が参加し、研修会が開催されました。主催である土地改良区連絡協議会小路推進幹事長のあいさつの後、「(株)栗本鐵工所湖東工場」で工法の説明を聞き工場見学を行いました。

2日目は、「琵琶湖干拓小中之湖土地改良区」で土地改良区の概要と施設の維持管理、多面的活動組織との連携、現状の課題と取組について、「六地蔵土地改良区」で大区画ほ場整備、換地計画、地域農業の現状と将来について説明を頂きました。

参加者の皆さんには貴重な経験になったと思います。

土地改良区役職員研修会

令和5年10月23日～24日、県内16土地改良区並びに、近畿農政局、和歌山県、県土連の職員38名が参加し、役職員研修会が開催されました。

主催である土地改良区連絡協議会永長会長等のあいさつの後、「古座川町潤野地区」のほ場整備の取組について区長から、近畿農政局前田地方参事官より「農業・農村を巡る情勢について」の説明を頂きました。

2日目は、三重県に移動し「御浜土地改良区」の概要と取組、午後からは和歌山県に戻り「三津ノ土地改良区」の概要と取組について説明を頂きました。いずれの研修においても、参加者の皆さんからたくさんの質問があり、熱心な意見交換が行われました。



新型コロナウイルス感染症は5類引き下げになり以前のように県外での先進地研修の実施が可能となりました。研修の希望等がございましたらご連絡ください。

全国土地改良大会（福井大会）



10月11日(水)福井県越前市 サンドーム福井にて第45回全国土地改良大会福井大会が開催されました。今回は、「水土里(みどり)がある 幸福(しあわせ)がある 笑顔がある ～ふくいで語る土地改良の未来～」をテーマに全国から農業農村整備関係者約4,000人が参加し、和歌山県内からは52名とたくさんの皆さんが参加されました。式典では、開催地である福井県土地改良事業団体連合会の山崎正昭会長の大会旗入場、開会挨拶で始まり、主催者を代表して、全国土地改良事業団体連合会二階俊博会長の主催者挨拶を義経

賢二副会長が代読されました。その後、杉本達治福井県知事、山田賢一越前市長、佐々木勝久鯖江市長から歓迎のことばをいただき武村展英農林水産副大臣、福井県選出の稲田朋美衆議院議員、全国土地改良事業団体連合会会長会議の進藤金日子顧問、宮崎雅夫顧問から祝辞をいただきました。

その後、土地改良事業功労者表彰が行われ、全国で66名の方が受賞されました。和歌山県では、南紀用水土地改良区の萩野幸一理事長が全国土地改良事業団体連行会長表彰を受賞されました。

また、農林水産省農村振興局青山健治次長の「未来へつなぐ土地改良」と題して農業農村整備に関する基調講演の後、優良事例紹介「土地改良における男女共同参画の取組み」としまして、富山県南砺市土地改良区 定司俊憲、福井県土地改良事業団体連合会 川合久利子理事から説明をいただきました。

翌12日には、越前市の日野川用水土地改良区「日野川用水中央管理所」を見学しました。日野川用水地区は、福井県のほぼ中央に位置し3市1町（越前市、鯖江市、福井市、南越前町）の受益面積5,610haの穀倉地帯に農業用水を供給しています。国営事業により、日野川の支流「榎谷川」に榎谷ダムを建設し水源の確保を図り、既存の取水施設を統合して八乙女頭首工を建設したほか、幹線用水路を整備し小水力発電所も2箇所の整備等を実施しています。今回、水力発電施設を紹介頂きました。

来年度の全国大会は、千葉県で10月22日に開催されます。たくさんのご参加をお願いいたします。



全国農業農村整備の集い（11月）



令和5年11月7日（火）、「全国農業農村整備の集い」が、シェーンバウハ・サボーで開催されました。全国の農業農村整備関係者約1,100名が参集し、和歌山県からは和歌山県議会農林水産振興議員連盟（土地改良部会）、和歌山市副市長、海南市長、紀美野町長、広川町長、日高町副町長、由良町長、印南町長、上富田町長、北山村長をはじめ39名が参加しました。始めに、進藤金日子全国土地改良事業団体連合会会長会議顧問の挨拶があり、その後来賓の方々より祝辞を頂きました。続いて、令和6年度の全国土地改良大会開催県である千葉県土地改良事業団体連合会の小島参事が要請書（案）を朗読し満場一致で採択されました。主催者挨拶では、二階俊博全国土地改良事業団体連合会会長より「闘う土地改良」続けるためには一致団結して努力して行く必要があると述べられました。その後、宮崎雅夫全国土地改良事業団体連合会会長会議顧問からの情勢報告や根本由紀子全国土地改良事業団体連合会女性の会会長から「男女共同参画の新たな取り組み」の報告がありました。最後に、令和6年度予算確保に向けた参加者全員による「ガンパロウ三唱」が行われ、盛会のうちに終了しました。

集い終了後、関係省庁へ採択された要請の要請活動が行われました。

令和6年度農業農村整備予算の確保に向けた提案活動

令和5年11月7日（火）に農林水産省、二階会長、県選出国議員に対し、令和6年度の予算確保等について、本会並びにため池保全整備連絡協議会、国営総合農地防災事業推進協議会から、下記の内容で提案活動を行いました。本会からの提案は

- ①物価高騰対策も含めた農業農村整備事業推進に必要な予算を確保すること
- ②国営総合農地防災事業（和歌山平野地区）の推進並びに国営土地改良事業（南紀用水二期地区）を令和6年度に全体実施設計に移行し、早期事業着手を実現すること
- ③土地改良区が維持管理する施設の電気料金負担を低減するための支援を継続させること
- ④地域の防災・減災力を効果的に高めるため、ため池貯水位を低下させる目的の洪水吐の整備について定額補助の対象とすること
- ⑤多面的機能支払交付金制度について、推進交付金及び資源向上支払（長寿命化）について十分な予算を確保することについて行いました。



第2 回和歌山県土連 監事会・理事会の開催

令和5年度第2回監事会・第2回理事会を12月26日（火）アパローム紀の国会議室で開催しました。

監事会では、監事全員が出席され、理事との契約についてこの会の代表に関する事項、令和5年度業務・会計・財産の中間監査、令和5年度の会計収支補正予算の承認について提案し、各監事から承認をいただき、また、理事会では、17名の理事のうち14名出席し、中山副会長の開会あいさつの後、県の農業農村整備課阪本副課長から令和6年度農業



農村整備事業の概算要求内容について情報提供いただきました。議事では、令和5年度会計中間執行状況報告について、令和5年度会計収支補正予算について審議され、すべて承認いただきました。

和歌山県水土里情報活用推進協議会からのお知らせ

令和5年11月27日（月）、県からの依頼により「和歌山県水土里情報システム初任者操作説明会」に出向き、県NN課及び振興局若手職員に対して、水土里情報システムの概要及び基本操作を説明した後、実際にサンプルデータを用いて入力操作実習を行いました。このように、事務局では会員支援活動をしています。講師派遣や使い方相談等の依頼がありましたら事務局までご連絡下さい。



現在、水土里情報システム利用団体は28団体であり、次のような多岐にわたる調査・管理業務等に活用されていますのでご紹介します。

（活用事例）中山間・多面的支払い交付金の対象農地の管理、農業経営基盤強化促進法に関する地域計画の目標地図作成、畑地かんがい施設等土地改良施設の管理、ため池浸水想定区域の図示、災害復旧事業の字切図、換地業務における農家分散状況図、空き家台帳、水道台帳、その他現地調査等々

【編集後記】

令和6年1月1日の石川県能登地方を震源とする大規模な地震により犠牲となられた方々に、謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災されました皆様に心からお見舞い申し上げます。また被災地での救助活動・復旧作業に従事されている方々に深く敬意を表します。皆様がいつもの生活に戻られますよう、一日も早い復興をお祈り申し上げます。